

学校や地域の取組から学ぶ

# 学校図書館を活用した 取組事例集

＜平成23年度の取組＞

取組 学校種別	掲載 ページ	タイトル	学校図書館担当職員(いわゆる 学校司書)や司書教諭の役割	授業における学校図書館の活用等	学校図書館の環境整備等	その他
幼稚園・ 小学校	P3	子どもたちに、「すてきな本に出会える環境づくり」と「読書に親しむ習慣づくり」を… (亀山市教育委員会)	○		○	
小学校	P4	学校図書館の活用向上をめざして～学校図書館にかかわる人々との連携のもとに～ (鈴鹿市立栄小学校)	○	○	○	
小学校	P5	図書館ギャラリー「たかつ あいあい ギャラリー」～本との出会い～ ◇学校司書と司書教諭が協同で生み出す (益田市立高津小学校)	○	○	○	
小学校・ 中学校	P6	「本が好きなまちづくり」をめざして ～自らの学びを深める学校図書館～ (向日市教育委員会)		○	○	
小学校・ 中学校	P7	学校図書館学び方・ワークシート集を用いた情報活用スキルの指導 (三木市教育委員会)		○	○	
小学校・ 中学校	P8	松江市立小中学校間・学校と市立図書館との図書資料をつなぎ、小学校・中学校の学びをつなぐ、図書館活用教育の取り組み (松江市教育委員会)	○	○	○	
中学校	P9	自由参加による放課後の読書会 (柏市立柏第四中学校)			○	○
小学校・ 中学校・ 高等学校	P10 ～11	生徒ひとりひとりに適応する学習内容のカスタマイズと協働学習 (学校法人同志社)	○	○	○	
高等学校	P12	生徒の未来が図書館で広がる～自由な読書を支援し、授業で使える図書館からの発信～ (島根県立松江南高等学校)		○	○	
高等学校・ 大学	P13	高大連携を活用した「調べ学習」の深化 (徳島県立城東高等学校)		○	○	
主に先生 向け	P14	先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース (東京学芸大学学校図書館運営専門委員会)		○	○	○

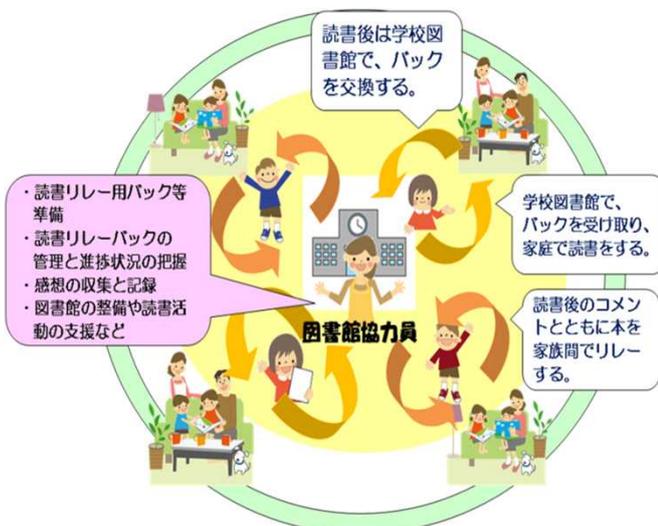
亀山市では、平成18年度から「学校図書館支援センター推進事業」を受諾し、市内5小学校に(※)学校図書館協力員を配置し、子どもたちが通いたくなるような、“人”がいる温かくて楽しい学校図書館づくりに取り組んできました。平成22年度より「学校図書館支援事業」として、学校図書館協力員を全小学校に配置して、「かめやましファミリー読書リレー」を実施し、読書活動を推進しました。

平成23年度は、図書館環境整備や読書支援・学習支援を継続推進するとともに、全幼稚園・全小学校へ拡大した「かめやましファミリー読書リレー」を継続実施しました。また、市内小中学校間の連携体制づくりに取り組みました。

### ●家庭と連携した子どもたちの読書習慣確立に向けた素地づくり

#### 「かめやましファミリー読書リレー」

「かめやましファミリー読書リレー」とは、幼稚園年長児・小学校1年生とその家族を対象に、設定した期間に毎週絵本を2～3冊家庭に持ち帰り、家族で読書を行います。リレーカードを使って各家庭の感想をつなぎ家庭での読書の楽しみを広げたり、読書習慣の定着を進めたりすることを目的としています。今年度は、他学年での取り組みも行われ、約750家族の参加がありました。



※学校図書館協力員は、学校図書館担当職員(いわゆる学校司書)に該当する。

参加いただいた家族からは、「いろいろな本に触れることができ、読書の楽しさを再発見した。」「本を介して、家族で楽しいひとときを過ごすことができた。」など感想が寄せられました。また、家庭において、本を介した家族のコミュニケーションやふれあいが深まるとともに、参加家族・児童の読書意欲を喚起することができました。

今後も継続実施し、子ども達の読書習慣の確立を推進していくために、本の補充や持ち帰る本の組み合わせ等の工夫が必要です。



### ●校内・学校間の連携体制づくり

#### 「学校図書館協力員グループの活動」

市内全小学校に学校図書館協力員グループを配置し、学校図書館の活用・運営への支援、教員サポート機能の強化を行いました。

今年度はこれまでの課題であった、学校間の連携を進めるため、「学校図書館等連絡会・研修会」を実施しました。内容は次の通りです。

- 第1回・ブックカバーのかけ方と掲示用モビールづくり「楽しい掲示物づくり」
- 第2回・絵本の選定と読み聞かせの方法(ワークショップ)「絵本の楽しさ」
- 第3回・POP(広告表示物)の作り方「見やすい手書きPOPづくり研修会」

このような研修の場を設定することで、市内の図書館協力員の活動内容の共通理解やスキルアップがなされました。

今後も学校間や市立図書館等関係機関との連携の在り方について協議していく必要があります。また、子どもの読書活動や学習活動が積極的に行われるよう蔵書管理のデータ化を進めていく必要があります。



本校では、子どもたちが読書意欲を高め、日常の学校生活においても読書活動を活発に行うようにと、司書教諭が中心となり、学校・家庭・地域と連携し、子どもたちの読書力を向上させる取り組みを行っています。主な取り組みは次の3点です。

- ① 日常的な取り組み
- ② 環境整備及び図書の充実
- ③ 学校図書館を活用した授業

### 日常的な取り組み

### 環境整備・図書の充実

### 学校図書館を活用した授業

#### ● 日常的な取り組み

朝の読書をはじめ、子どもたちは、年間を通して、「読書のあゆみ」に読んだ図書を記録し、担任が目を通して、定期的に職員やボランティアによる読み聞かせを行っています。読書週間と関連付けた取り組みや「校内読書郵便」、「この本よかったよ」など、子どもたちが主体的に本にかかわる機会を設けています。

委員会活動においても、図書委員会が中心となり、お薦めの本の紹介、図書館クイズ、コーナーの設置等に取り組み、児童が主体となった読書推進活動を進めています。

#### ● 環境整備・図書の充実

学校図書館巡回指導員及び環境整備支援員、地域ボランティアと連携し、月毎にテーマを設置したり、国語の教科書に掲載されている物語の作者の作品を常設したりするなど、学校図書館が魅力あるものになるよう取り組んでいます。



学級文庫の充実及び学習に即した図書の補充として、公立図書館での団体貸出を利用し、学習や読書活動に活用できるようにしました。

#### ● 各教科等の学習に図書を積極的に活用

各学年で年間指導計画を作成し、図書館活用や必要な図書の選定の参考としました。

言語活動の充実を図ることをねらいとして、算数科の授業に取り組み、学校図書館に算数科に関する図書の配架や関連本のコーナーを設置しました。

国語の教科書に紹介されている図書を揃え、常時手に取りやすいように環境を整えました。

#### 【実際の取り組み事例】

##### ・1年生【国語】

図鑑を利用し、自動車の仕事とつくりを絵と文にまとめた。

(「くらべてよう」「じどう車くらべ」)

##### ・2年生【生活】

図鑑を利用し、身の回りにある材料を使ったおもちゃづくりのアイデアやヒントをさがした。

(「わくわくおもちゃランド」)

##### ・3年生【国語】

大豆からしょうゆができることや卵からマヨネーズができることを参考図書で調べた。

(「食べ物のひみつを教えます」)

##### ・3年生【総合】

施設の役割について調べた。(「公民館調べ」)

・3年生【理科】昆虫の体のつくりや生育等について調べた。(「いろいろな昆虫を調べよう」)

##### ・4年生【総合】

社会見学先の施設と自然や環境についての調べ学習をした。

##### ・5年生【国語】

図書館を利用し、テーマ読書に取り組んだ。

(「大造じいさんとガン」)

また、学校図書館の利用者がより増えるにはどんな取組を行えばよいか、図書館をどう改造すればよいかなどを考えた。(「図書館改造計画」)

##### ・6年生【総合、社会】

修学旅行で訪れる京都、奈良の世界遺産に登録されている建造物等や戦争、平和について調べ学習を行った。

##### ・特別支援学級

国語、生活で、語彙を増やし、発語を進めるために、図書館のこぼ遊びの本や絵本を活用し、生活力を高めるために、週ごとにテーマを決めて調べ学習に取り組んだ。





「本が好きなまちづくり」をめざして ～自らの学びを深める学校図書館～

向日市教育委員会

向日市では、「本が好きなまちづくり」をめざし、これまで「読書センター」としての機能強化に視点を置き、教員サポートを行ってきました。学校図書館支援員の派遣や、ブックトークやアニメーション等の研修を経て、読書活動、読書環境が充実し、児童生徒の読書量の増加や家庭の読書への意識の向上などにつながってきています。

そこで、平成23年度は、子どもたちがより成長をするため、学び方を学ぶ場としての学校図書館の機能をより重視し、「学習・情報センター」としての機能強化を図る教員サポートを行いました。



本の魅力を伝える工夫の1つとして、百科事典の活用の仕方を伝える授業を設定するのは大切だと思いました。調べ方を丁寧に教えることで、習得方法を学ぶことができ、自ら進んで学習することにつながると改めて感じました。

◇学び方を学ぶ研修の充実

学校図書館支援員や、各校の学校図書館や総合的な学習の時間の担当教員を中心に、百科事典を使って学び方を学ぶ研修を行いました。講師による公開授業を参観する中で、子どもたちに学び方を指導する方法やその効果を学び、また、実際に学び方を体験することで、子どもたちに資料を与えるだけでなく、資料のより効果的な活用方法について、丁寧に指導することが大切であることを再認識しました。

また、市内各校の保護者を中心としたボランティアの方々へは、「学習・情報センター」機能の大切さについて研修を実施し、図書以外の資料ファイルの作成にご尽力いただくとともに、環境づくり、資料充実にご協力をいただいています。

◇小中9年間の系統的なカリキュラムによる「ふるさと学習」スタート

本市は、今から1200年以上も前、平安京遷都までの10年間にわたり「長岡京」がおかれた地です。数多くの歴史・文化遺産に恵まれており、各小中学校では、これまでより、社会科、総合的な学習の時間等において積極的に地域学習に取り組んできました。さらに平成24年度からは、ふるさとに愛着と誇りを持ち、地域の一員として自らの生き方について考え、社会と地域の発展に貢献できる児童生徒の育成を目指して、身近な遺産や特産物、職業等を小中9年間の系統的なカリキュラムで学習する「ふるさと学習」をスタートします。

また、他教科においても、学習指導要領の改訂により、「ふるさとの良さをしょうかいしよう」などの地域教材や資料活用教材が増えています。

これらを受け、平成23年度は、図書だけでは得られない情報として、地域の歴史・文化遺産や観光、商業等、様々なパンフレット等をファイリングした「向日市ふるさと百科」を作成し、各校に備えました。また、市内だけでなく、「乙訓百科」や「京都府百科」「〇〇県百科」と、ファイリングを広げています。子どもたちは、これらの資料を手がかりに、さらに自分たちで資料、情報を収集し、学習を深めています。



さらに、ポスターコンクールの冊子や、作文集等、学習に生かせる図書以外の資料を収集し、多くのジャンルにわたる新しい情報の充実を図っています。

今後、蔵書とともに、これらの資料を有効活用し、児童生徒が「学び方を学び」ながら、自発的、主体的に学習する環境を充実させ、読書、情報活用等、図書の様々な魅力を含めた「本の好きなまちづくり」をめざし、取り組みのさらなる充実を図っていきたくと考えています。



学校図書館の情報メディアを使用した学び方の指導は、児童生徒に情報活用スキルを身に付けさせることにつながっています。三木市では、平成21年度に市内の学校図書館教育研修部会が中心となり「学校図書館学び方・ワークシート集」(以下「ワークシート集」という)を作成しました。ワークシート集は、小学校低学年用が7シート、中・高学年用が21シート、中学校用が8シートから構成されています。

平成22年度からは、ワークシート集をもとに各学校で学校図書館の活用を通じた情報活用スキルの向上に取り組んでいます。

●実際の取り組み事例1

【地図帳を使って、都道府県新聞を作ろう】

使用ワークシート:「地図の利用」

<実践の流れ>

- ①地図帳を使っての基本的な学習事項を振り返る。
- ②地形・人口・交通・産業に係わる地図帳の約束事を振り返る。
- ③調べたい都道府県を決定する。
- ④地図帳を使って、歴史や環境の記号について学習する。
- ⑤図にまとめ、新聞づくりをする。
- ⑥新聞を発表し紹介する。

<実践の工夫と成果>

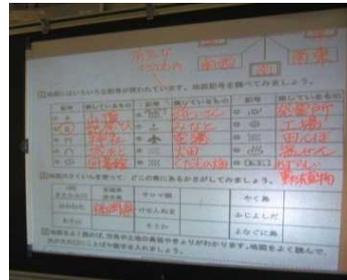
地図帳を使った学習は、これまでも折に触れ行っていたので、児童の多くは調べ学習に意欲的に取り組むことができました。

新聞作りの学習も1学期に二度行っているため、比較的スムーズに学習に取り組むことができました。

<課題>

ワークシート「資料リストの作り方」を活用して、調べ方の学習をし、調べたことが理解できているかどうか点検を繰り返すことで、より早くより正確に自分が欲しい情報を得ることができるようにすることも必要です。

インターネット検索が自分でできる児童の中にも、図書館の本の方が調べやすいと言って、自分がより調べやすく情報を得られる方法を選択することができる児童もいます。この情報収集力の差を授業の中でどう埋めていくかが大きな課題といえます。



●実際の取り組み事例2

【はしがき・あとがき・奥付の使い方を学ぼう】

使用ワークシート:「はしがき・あとがき・奥付の使い方」

<実践の流れ>

- ①「はしがき」「あとがき」のある本を見つける。
- ②「はしがき」「あとがき」について考える。
- ③「奥付」について考える。
- ④まとめ

<実践の工夫と成果>

どの児童も意欲的に授業に参加できるように、本探しの活動を取り入れました。そのことにより、児童は宝探し感覚で本を探すことができました。

<今後の取り組み>

社会科の学習の中で新聞作りをしたり、理科などでは、書籍の中から引用して研究をまとめることがあります。今後、奥付に書かれた情報から参考文献を記載するように指導していきたいです。



## 松江市立小中学校間・学校と市立図書館との図書資料をつなぎ、 小学校・中学校の学びをつなぐ、図書館活用教育の取り組み

松江市教育委員会

松江市では、「人のいる図書館」を実現するため、平成21年度から市立小中学校全校に学校司書を配置し、子どもたちにとって居心地のよい学校図書館の実現を図ってきました。これにより、読書活動・学習活動を進めやすい学校図書館の環境整備が進み、子どもたちの読書量の増加や、図書館を活用した授業実践の取り組みが増加しました。

平成23年度は、「つなぐ」をキーワードに次の2つの柱を含めた取り組みを進めました。

### 1 学校図書館等の蔵書相互活用の取り組み

#### (1) 目的

- ①市立小中学校・市立図書館で所蔵する資料を共有化して有効利用する。
- ②より多くの資料の確保により、図書館活用教育の充実をめざす。
- ③学校司書が子どもたちと関わったり、教職員と打ち合わせをしたりする時間を十分に確保する。

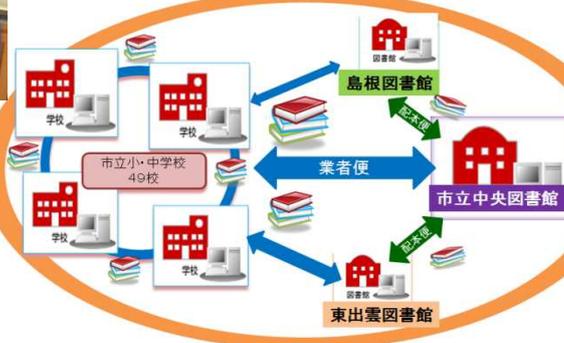
#### (2) 物流システムの概要 <下図参照>

- ①学校間の資料共有  
FAXや電話で依頼し、物流便を利用して貸借を行う。
- ②市立図書館の資料活用  
市立図書館の資料を、メールやFAX等で予約し、借受、返却を物流便で行う。



### 物流ネットワークシステム

松江市立小・中学校と市立図書館、そして、学校間での貸借が可能に



### 2 図書館を活用する学び方指導體系表の作成

#### (1) 目的と取り組みの概要

- ①学力調査結果等からの実態把握を基に、図書館活用教育を通して松江市の子どもたちにつけたい力として「情報リテラシー系統表」を作成した。
- ②松江市「学校図書館を活用する学び方指導體系表～子どもたちの情報リテラシーを育てる～」を作成し、松江市立小中学校が、義務教育9年間を見通した各教科等の「年間指導計画」作成に活用するとともに、授業実践の一層の充実をめざした。

### 3 取り組みの効果と今後の課題

- ①学校図書館等蔵書相互活用の取り組みを開始したことで、特に各校の地域資料の貸借や市立図書館からのセット貸出が行いやすくなり、図書館を活用した授業実践への環境整備が進みました。
- ②図書館を活用した子どもたちの学びを育むためには、情報リテラシーのスキルを育む基盤となる「読書の力」を育て、各学校で学校司書を含めた教職員が協働し、学校図書館を活用した教育を進めていくことが重要であり、そのための司書教諭の役割は大きいと言えます。

今後、さらに蔵書相互貸借の仕組みが授業実践に役立てられ、学校図書館の学習・情報センター機能が充実していくように支援センターの取り組みを進めていきます。

## 自由参加による放課後の読書会

柏市立柏第四中学校

千葉県では「確かな学びの早道『読書』事業」で、読書の輪を広げる取り組みの一つとして、ブックトークや読書会を開催するように呼びかけています。

ここでは、柏第四中学校で放課後に有志が集まって行われている「読書会」を紹介します。

心を解放し安心して仲間と一冊の本を巡って語り合うことによって、読みを深め、生き方について考えるなど、読書の醍醐味を味わっています。

## 自主参加による放課後の「読書会」

- ・対象 自主参加希望者
- ・回数 年間12回（不定期）
- ・内容 指定した図書を全員で読み自由に感想を交流したり、論点を設定して、意見を交換したりして、本を介して語り合う。

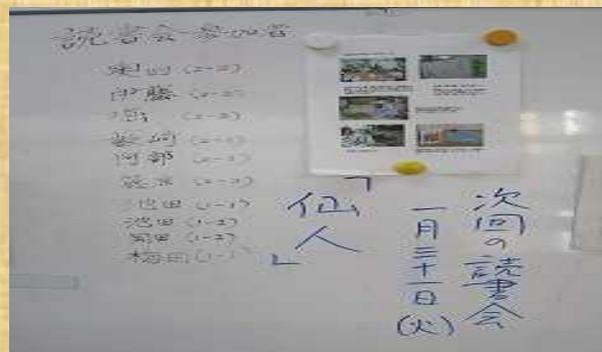
## (1) 開催の方法

- ・学校図書館のホワイトボードに開催予告を表示する。
- ・参加したい生徒が自主的に名前を書いてエントリーを行う。
- ・課題となる本を学校図書館から借りて持ち帰り、朝読書の時間や家庭で読んでくる。

## (2) 実施手順

『杜子春』（芥川龍之介）での実践例

- ・平成24年1月17日  
15:00～全1時間
- ・生徒による司会進行
- ①読書会ルールの確認  
自由に発言する。互いに認め合い、否定・批判はしない。
- ②論点を決めて自由に意見交換  
杜子春について、仙人のしたことについて、自分の親への思い等について語り合う。
- ③感想を紙に書いてまとめる。



## (3) 本年度の実施状況

- ・年間12回開催
- ・読書会で読んだ本…  
『最後の一葉』（オー・ヘンリー）  
『飼育する少年』（薄井ゆうじ）  
『おとなになれなかった弟たちに』（米倉斉加年）  
『ためき親父』（柏葉幸子）  
『残されたフィルム』（内海隆一郎）  
『鳥』（安房直子）  
『目』『鼻』『蜘蛛の糸』『杜子春』『仙人』（芥川龍之介）

新学習指導要領における「生きる力」「確かな学力」の育成に、図書館を利用した授業が大きく関わるものだと考え調査研究を行いました。

● 学びのプロセス(T-model)の開発

同志社国際中高で1998年から行われている「コミュニケーション&メディア」という図書館を活用する科目では、メディアの特性の理解と積極的な活用を目論み、情報の収集から発信の方法を実習し、一方でセキュリティやネチケット・著作権など情報社会の常識についても考えさせています。2、3学期にはグループでプロジェクト・ベースの学習に取り組んでいます。

2011年度は、現在の日本、もしくは世界に点在する様々な問題からひとつを選び(A)、その現状や問題の本質を調べ(B)自分たち自身で解決策を考案し(C)、ポスターセッション(D)の場で提案する(E)という課題を与えました。一連のプロセスにおいては図書館を活用する「知識・技術の習得」と、課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を育成できるようなカリキュラムを組みました。グループでの成果はクラス全体で共有し、相互での評価が行われ(F)、それをもとに再考察が行われるというのがこのプロジェクトにおける一連の学びのプロセスです。「コミュニケーション&メディア」の実践の中で見えてきたこの学びのプロセスは「T-model」に(AからFの過程も図示し)記しました。(下図参照)

学校図書館にあってはこの学びのプロセスすべてを行うことが可能です。しかし、一つの教科や一部の単元でプロセスすべてを行うことは難しいです。実際の授業の中では、AからFのうちの一つもしくは複数のセクションを組み合わせた授業が行われることが通常です。

● 事例研究—他校見学

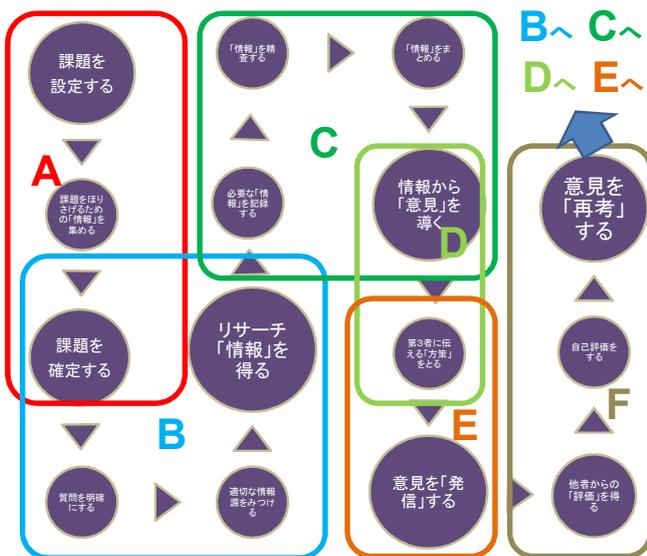
よりよい授業への支援のありかたや、総合学習や調べる学習の中心として学校図書館がどう位置づけられているかを探るために、関西、関東の2校の進学校を見学しました。

① 関西大学初等部・中等部・高等部

関西大学中等部の「考える科」では授業の中でシンキングツールや「振り返りシート」を用いて学びのプロセス(BからE)を丁寧に追っていきます。初等部「ミューズ学習」、高等部「プロジェクト科目」のつながりにより、授業時間をとおして問題の発見や解決を促し学園で一貫した探究学習を行うことができるのです。



学びのプロセス T-model



② 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校

ここでは「自調自考」の教育理念のもと生徒の日常の活動の中で学びを体得していきます。高校段階での「自調自考」論文の作成により、生徒個人で(AからEまでの)学びのプロセスを踏みます。プロセスの過程は担当教員との面談で行われ、レポートを夏休みに完成させ論文は文化祭で展示(F)されます。



●学内でのアンケート調査

学内のアンケート調査では、ニーズはあるが図書館を利用した授業のイメージができないことや、指導・評価への不安がハードルとなることが明らかになりました。

以上の点を踏まえて、研究協力校において、学びのプロセスと図書館・司書教諭の支援を考えた「教科・単元」での小規模プロジェクト的な授業実践を行いました。特に、授業担当者の持つ教材に対する専門性と、司書教諭の学びのプロセスへのアイデアの蓄積の協働により、教科の領域にも踏み込んで「知識・理解」の定着のベースとなることも成果としてありました。

●授業実践

①高1必修「情報」における実践(同志社中高)

単元 『情報化が社会に及ぼす影響』

担当 授業担当者:鈴木 司書教諭:足立

学校図書館を利用して授業を行い、「身の回りにある身近な情報機器や情報システム」を生徒に広く捉えさせることを目的とし、2~3時間で終了する小さいプロジェクトとして単元を設定しました。

司書教諭との打ち合わせ・ブレインストーミングにより、情報収集や課題設定の過程を明確化するためのワークシート・ガイドマップ作成の提案があり採用しました。また、グループで課題を決定するプロセスを学ばせることを柱としました。

授業では授業担当者が取り組むテーマの説明と授業進行を受持ち、司書教諭は図書館における支援内容のガイダンスと資料検索の補助を中心に、チームティーチングで実施しました。

環境が変わることによる生徒の落ち着きのなさと、評価の基準が不明確な点が課題となりましたが、生徒対応では事前打ち合わせとチームティーチングで解決し、評価に関しては、学びのプロセスの過程や結果を評価する材料を用意し評価の精度を高めることが出来ました。

②高1国語科必修「古典」における図書・情報センターを活用した授業実践(同志社女子中高)

単元 『平家物語』『木曾の最期』

担当 授業担当者:小谷 司書教諭:家城

教科書の文書だけでは理解が難しいと考え、掲載されている木曾最期までのあらすじを紹介し、文中の義仲と今井四郎の言動につながることを理解させました。あらすじがわかれば、文法事項や古語の意味が正確に読み取れなくても、内容を理解でき、両者の感情をくみ、ある場面でのどのような言動をとるか感情的に読み取ることが、生徒の印象に残ると考えました。

たとえば、当時の合戦の装束が、教科書では文中の文言と異なる色使いの衣装を着た武士が挿絵にあり、その違いを把握するワークシートを考えました。

司書教諭は図書・情報センターで、授業時に1時間、以下のようなガイダンスを行いました。

- ・平家物語の構成
- ・語りとしての平家物語の鑑賞(冒頭部分)
- ・年表で平家の盛衰の期間を知る
- ・登場人物の名前を系図で紹介
- ・読み聞かせをする
- ・当時の合戦の装束をイラストで紹介する
- ・行進ルート、敗走ルートを示す

教科国語の領域にかなり踏み込んだガイダンスであり、1箇所を焦点を当て、ガイダンスによって明確なイメージを抱けるようにするためグラフィック・オーガナイザーの使用やガイダンス時に時代、地域、人物関係に焦点をあてられるように図を導入するなど工夫をしました。

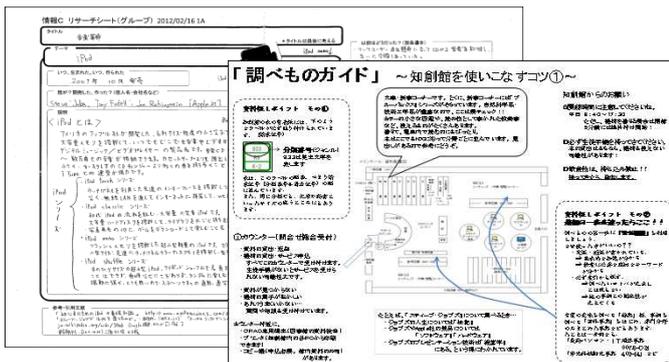
●まとめと課題

学校図書館を利用して授業を行う場合、教室で行うものと違い、教員の指導や生徒の活動が複雑に絡み合うものとなります。

実践例を調査し、いずれも学びのプロセス(T-model)を踏まえた展開を行っていきました。また、海外では生徒中心の学びの手段として教員と司書教諭と協働が行われています。

学校図書館として、教員に様々な実践例や支援ツールを提供するなど、授業の具体的なイメージを抱いてもらうために、さらなる働きかけが必要だと考えます。

生徒の学びを深めるために、支援内容や手順などを統一させる必要があり、共通マニュアルの作成を今後の課題として計画しています。



## 生徒の未来が図書館で広がる ～自由な読書を支援し、授業で使える図書館からの発信～

島根県立松江南高等学校

平成23年度 島根県立松江南高等学校教育目標

- ・一人ひとりを大切にする教育
- ・規範意識と自立心の醸成
- ・学びの姿勢を育む授業と学習習慣の確立
- ・個に応じた進路指導とキャリア教育の推進
- ・心と体の健康を大切にした教育の推進
- ・創造性や個性の基礎となる感性を育む教育の推進

南高図書館の活動目標

- ⇒「読み」を支える自由な読書の支援
- ⇒「学びへの意欲」を高く持つ
- ⇒授業・読書による想像力・発想力の育成
- ⇒授業でコミュニケーション力・段取り力を育成
- ⇒「生きる力」の育成

- ・学校図書館を活用した探究型授業を通して言語力・論理的思考力をはじめとする「生きる力」を獲得する
- ・授業での言語活動「読む」「考える」「書く」「話す」の展開を支援する
- ・情報活用能力・論理的思考力・学びへの意欲に関わるシラバス作り

松江南高では、調べ学習として図書館を使って展開していた授業が過去にもいくつかありました。研究にあたって、それらの授業を言語活動を意識させたスタイルに変更して実施しました。その結果、特に言語能力や論理的思考力は学習の基盤であり、図書館を使った探究型授業は、上記の力を育成することができるかと確信しました。



みんなで調査し、真剣に話し合ったことを1年生に伝える

図書館は、教材作成や資料援助などを行っていましたが、特に言語能力の育成のために言語活動を重視した授業や図書館を活用した探究型授業を実践しました。多くの授業を実践した結果、情報活用能力・論理的思考力・学びの意欲の育成に関わるシラバスの必要性が生じ作成しました。

また、文武両道で、忙しい高校生活ではありますが、多忙な毎日の合間を縫って生徒たちは、自由な読書を楽しんでいます。

政経演習：ディベートの準備 資料を読み取り、主張を組み立て、反論を想定しながら準備を進める



生徒図書委員会の活動は自主的にかつ活発に行われています。日常的な図書館の業務や環境整備を助けてくれることはもとより、毎朝、新聞から南高生に読んでもらいたい記事をピックアップし、要約して意見を書き加えたものを掲示する活動も行っています。学園祭では「知的書評合戦・ビブリアバトル」という自分の好きな本の書評をプレゼンする企画も行いました。飛び入り参加まで出るほど大変盛況でした。これも平素から本に親しんでいるからできることです。

探究型学習においては、生徒たちはただ、課題をこなすだけではなく、課題解決の先に自分たちの未来を見えています。興味を持ったことを自分の力で探究していくことで、「自立した学習者」としての基盤づくりを今後も校内の他の分掌とも協力して育成していきたいと考えています。

## 高大連携を活用した「調べ学習」の深化

徳島県立城東高等学校

### ●取り組みのねらい

本校では「総合的な学習の時間」に、2年生を対象として「調べ学習」を行っています。

本年度は、近隣にある徳島大学との高大連携を活用し、生徒の「調べ学習」を更に深化したものにすることをねらいました。

### ●「調べ学習」の概要

(1年時～新書レポートから)

まず、生徒たちは1年生の冬に、2年生が行う課題研究発表会を聴講し、モデルを持つことで、1年後に自分たちが行う発表について、イメージを持ちます。

そして、春休みに自分の興味関心にしがたって新書を読み、研究内容やテーマ選定への準備を行います。

(2年前半～班分けとテーマ決定)

4月に入ると、「自然科学」「工学」「医療」「人文科学」「社会科学」「教育」「芸術」「生活科学」の8分野、12グループに分かれ、5月にはそのグループ内で、4人程度の研究班を作ります。6月には班の研究テーマを仮決定し、それに基づいて夏休みに再び新書の読書に取り組み、個人研究として、来る秋のグループ研究に備えます。

この際に、学校図書館や近隣の公共図書館を大いに活用することとなります。

(2年中盤～高大連携による講義・助言)

ここからいよいよ高大連携を活かした取り組みが始まります。

まず9月に徳島大学の先生から、資料の読み取り方や課題の設定について、ご講演をいただき、研究を進める上でのたくさんの示唆をいただきました。また、10～11月のグループ研究の中でも、一部は大学の先生から助言をいただきました。他にも徳島大学への授業体験に参加し、刺激を受けた生徒もいました。

そうした研究内容をまとめ、12月にグループ内で、全ての班が発表を行いました。そして、各グループから代表班を選出しました。

(2年後半～代表グループへの助言)

選出された代表には、更に二度にわたって、徳島大学の先生お二方より、指導と助言をいただきました。



※大学研究者による指導・助言の様子

この指導を通して、生徒たちは発表内容の切り取り方・伝え方のみならず、問題自体の深め方も学びました。

そして、これらの成果について、ご指導くださった徳島大学の先生、保護者の方や教育委員会からの来賓をお招きして、発表会を催しました。

その際の講評では、「大学生の発表にも劣らないほどの質の高さであった」との評価をいただきました。

これらの研究内容は、代表班以外のものも含め、全ての班のものを『叡知の扉』という冊子にまとめ、刊行しています。



### ●成果と課題

発表に向け試行錯誤する中で、課題を探求し、思考することの面白さに多くの生徒が気づきました。また、そうした発表が後輩たちへの刺激にもなっています。そうした「学びのサイクル」を今後どう持続させていくかが、課題だと感じています。

## 先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース

東京学芸大学学校図書館運営専門委員会

平成21年12月から公開している「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース(以下「Webサイト」という。)」は、教員のレファレンスに特化した授業実践をデータベース化し、それぞれに学習指導案と利用した図書のリストや解題をつけたものです。

他に毎月更新する「今月の学校図書館」や「学校図書館の日常」の記事によって、活動する学校図書館の姿を発信しています。

平成23年度の研究課題は以下の3つになります。

- ・「Webサイト」の質的・量的の充実を図る。
- ・学校図書館がどのような分野で有効活用されるかの事例分析を行う。
- ・「Webサイト」がどのように活用されているかの調査をする。



## ●サイトURL

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/>

## ●事例の質的、量的充実

図書館活用授業事例は平成21年度末には23件でしたが、23年度末には93件になりました。またインタビュー、「情報リテラシー教育」等の記事も増え、小・中・高で使えるワークシート等の資料も「資料アラカルト」欄を新設し、掲載していくことになりました。平成22年度より学外事例の掲載を始め、事例の質的充実にも努めました。

また画面のリニューアルを行い、目的やコンテンツのカラムをよりわかりやすく表現しました。



## ●学校図書館を活用した授業の利点を分析

実践事例提供教員にアンケートを実施し、学校図書館を活用した授業のねらいは何か、またそのねらいは達成できたかを質問しました。

回答からは、いわゆる調べ学習によって身につけたい情報活用能力だけでなく、想像する力や感じる力、あるいは自己肯定感といった単なる学力では測れない力をあげる教員も少なくありませんでした。

また、学ぶ際に必要な意欲を喚起するためや、理解を手助けするために学校図書館の資料が使われていることがわかりました。

学校図書館という場の魅力に気づき、将来的に公共図書館の利用に繋がりたいと考えている教員もいました。

ねらいの達成に関しては、多くの教員が手応えを感じ、今後もこのような授業を行いたいと回答していました。

## ●Webの活用状況

Web上での利用者へのアンケートや大学で司書教諭科目をもつ教員への聞き取り調査では、具体的な図書館活用の実践事例を見せることが出来たととても役立っているとのことでした。本学学生に大学附属図書館にて行った調査では、まだ認知度は低いものの、実際にサイトを見た学生の反応は今後活用したいというものが多くありました。

(今後の課題)

事例のさらなる充実、教員の使いやすさの研究、サイトの広報に努めていきたいです。